

2023年度 会長インタビューでお伺いしたご意見の要点

インタビュー対象者	大事にしている「言葉」や「考え」	学生・若手への想い	大学の教育研究への期待	企業経営において大事にすべきこと
株式会社大林組代表取締役社長 蓮輪 賢治 様	<p>「平常心是道」: しんどいときはしんどく、苦しいときは苦しいということで、しんどくて苦しいときにそでない振る舞うことでなく、あるがままに生きることが平常心（びょうじょうしん）。</p>	<p>「人のつながりを大切に」「コミュニケーション力を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のつながりを育む大学時代を活かし、学生間の交流を大切にすること ・働きがいと達成感を大切に ・コミュニケーション力が大切で、それを高めること 	<ul style="list-style-type: none"> ・官には媚びない、迎合しないという気質「大阪大学工学部らしさ」を期待。 ・基盤技術などの基盤分野によってグローバルに活躍している土台を大切に、グローバルな状況を見据えた上での研究開発と、それを担う人材養成し、我が国の「国力」「経済力」を高めることを期待。 ・教育では、「わくわく」感じさせるものを。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークスホルダーとの協調を考えた「バランスカ」による成長 ・コミュニケーションが大切 ・平常に過ごし、事業経営に ・ビッグプロジェクトが人を育てる（自社経営） ・社会インフラの充実・保全 ・地球環境の変化に伴う国民生活の安心・安全の担保。日本全体と個人のBCPに貢献する
元・株式会社NTTドコモ 代表取締役社長 大阪大学工業会副会長 山田 隆持 様	<p>「切磋琢磨」</p>	<p>「目標を」「リベラルアーツが重要」「集中力を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき目標を持つことと、やりたいことをやり遂げること ・大学生活での余暇の楽しい思い出を大切に ・教養教育の良さは「後で分かる」ものであり、リベラルアーツを大切にすること ・トータルパワーを集中させる能力がもたらされる ・「自分が偉い」との思いは、往々にして間違いをもたらす 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育の重要性からも、工学教育と教養教育とをマージして教育するのがよい。リベラルアーツが身につくような教育体系が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「常識が一番」と「お客さまが大事」の二つと、現場とのコミュニケーション ・トータルパワーの発揮のため、指揮命令系統の確立と情報の共有化 ・リーダーは一度は必ず現場を見ること、そして現場のことは現場に任せること
株式会社ダイヘン 代表取締役社長 蓑毛 正一郎 様	<p>Done is better than perfect.: 完璧を目指すよりもまず終わらせる（ザッカーバーグ）。完璧な計画を創ろうと時間を費やし苦労するよりは、さっさとできることをしていく方がよい。</p>	<p>「仲間作り」「学びの継続」「やりきる力を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活を楽しむこと、そして仲間をつくること ・就職の動機：研究開発活動を重視する企業の魅力に惹かれて ・「学びの継続」と「やりきる力」が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔のままのモノがよいというわけではなく、基盤的なモノと発展させるモノなどのバランスを考えつつ、とにかく手を動かすことも重視して教育して欲しい。 ・自ら考え、また考えを発信できる人物に期待。 ・大阪大学の大きな特徴の一つでもある産学連携・共創によって、産業界の発展への貢献に期待。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術開発力が命：独自性と貪欲さを重視 ・事業展開に重点を置き、開発費を確保して、社会に貢献できる技術開発へ ・開発を担う若手の活性化へ：誠実さと実直さを。次世代の開発課題と若い力への期待。（自社経営） ・「マテリアル・プロセッシング」の技術分野で、新しいものづくりを事業展開。
三洋化成工業株式会社 取締役会長 安藤 孝夫 様	<p>「一期一会」: 生涯に一度の機会かも知れませんが、その機会に専念することが大きな利につながる。巡り会いはチャンスで、事業でも、いろいろな面での出会いを大切に</p>	<p>「努力は報われる」「読み込みを」「知的好奇心と努力」「与えられた環境を楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指すことは、世界で誰もやってない研究を。研究を革新する心をもつこと ・「努力は報われる」ということ、「好きになること」が大切 ・文献・資料の読み込みが重要 ・与えられた環境を楽しむこと。 ・重要なことは、規模でなくて、何をどのようにやるかである ・「知的好奇心」と「努力できる才能」が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養・学部の講義は印象的であった。感じることで興味をそそることへの配慮 ・社会人博士制度は、産業界に働く研究者にとってとても有難い制度。 ・工学研究科に望む人材養成：「知的好奇心」と「努力できる才能」を持ち主体的に動く人材を ・「世界をリードする」独創的な研究を。 ・リーダーシップをとる多様な人財を送り出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発商品の根本は「見極め」と「継続」 ・経営の基本は過去の直しと慣例主義からの脱却：ポイントはトップの意志 ・持続可能性のために必要なのはレジリエント（自社経営） ・規模でなくて、何をどのようにやるかが課題 まずやってみましょう ・「企業を通じてよりよい社会を建設しよう」 ・市場規模よりは社会課題の解決を
シスメックス株式会社 代表取締役社長 浅野 薫 様	<p>「Connecting The Dots」: (スティーブ・ジョブズ) 「点」は取組で、事を成した時は、過去の取組がゴールへ線としてつながっている。あらかじめ予測して点を打ったのではなく、結果として後から振り返って見るとつながっているということ。</p>	<p>「人のつながりが大切」「基礎の充実」「多様と統合」「強い意志と意欲を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手にとって重要なこと：「基礎の充実」と「人のつながり」 ・学ぶべきは：ものの考え方とアプローチの仕方、「基礎」をいかに学び、身につけるかが将来に向けて大切 ・社会のために役立ちたいとの気持ちの強さと、初心は忘れないことが大切 ・初心の熱い想いを大切に ・学生・若い人に望むこと：「多様」と「統合」 ・「強い意志・意欲」、更には「気力」を持って行動すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期視野の基盤強化と学生の意欲向上を。 ・評価の問題があり、直ぐに成果を求められている感じがする。成果は確かに必要ですが、成果、成果に寄りすぎると、大学としての本来の役割を果たせない部分もある。 ・もう少し長期的な視点を。「志」を大事にする教育を。 	<ul style="list-style-type: none"> （自社経営） ・「協調性」がシスメックスの強み ・手術支援ロボットの開発への強い意欲と開発を高めた創る人と使う人のコミュニケーション ・データベースを活用した新しい医療分野のビジネスの構築
元・南海電気鉄道株式会社 取締役社長 亘 信二 様	<p>「縁を大切に」: 同窓会は大事。直接業務での接点はなくても社内での面識のある人が増え、それが互いの力にもなる。</p>	<p>「学びと惹かれる心」「組織運営力を」「変わる勇気を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門教育の学びの重要性は後で分かる ・大学の講義の難しさや新鮮さには惹かれる気持ちを大切に ・大学生生活での人のつながりを活かし、組織運営力を身につけること ・「変わる勇気」を持つ：業務の見直しなどにつながる変化を大切に 	<ul style="list-style-type: none"> ・「気づき」とその展開が図れる人材の養成を。 ・ビジネスの意識を高めるような教育を。 ・博士人材については、やはり、産業界も博士課程を終えた人材を活かす体制を考えることが必要で、連携を重視すること。 ・組織のマネジメント力を高める教育を。 	<ul style="list-style-type: none"> （自社経営） ・輸送人数をいかに増やすかということがポイント ・広く他社との連携 ・全体的なバランスを考えた人員配置 ・電気部というコスト部門からコスト削減への自動化の活用と他社連携の動き

<p>丸一鋼管株式会社 代表取締役社長兼COO 吉村 貴典 様</p>	<p>「細心で大胆に」： 物事を進めるときには、決めるまでは細心で、決めれば大胆に押し進めること。</p>	<p>「知識の広さ」とそれを活かす力</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識を活かす能力につながる知識の広さを大切に 	<ul style="list-style-type: none"> 人材養成について、多様な知識・情報とその活用を図る能力を。 基本的なことをしっかりと教えて頂くこと。 博士号を持った人が少ない現状を改革願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> SDG s やESG を常に意識し、利益を出してSDG s やESG を推進していくことが経営者としても大切な視点 「選択と集中」のバランスが基本 (自社経営) お客様の顔を意識することが重要。設備導入するにしても、使う人のことを考えて 設計の基本は「なぜ」にかえること リーディングカンパニーの意義：小規模工場を活用した需要地生産システム
<p>岩谷産業株式会社 代表取締役社長 間島 寛 様</p>	<p>「吾唯知足」： あまり高望みしない、あるものでしっかりやっていく、すなわち、自分に必要なものは何かを考えることが重要。</p>	<p>「卒業研究での学びの大切さ」 「虚心坦懐に見る」「知的好奇心を」「必要とされるものに」</p> <ul style="list-style-type: none"> 工学部の特徴たる卒業研究で学んだことが経営に生きる 技術者は虚心坦懐に結果を眺めること、思い込みが強いのは良くない 「知的好奇心」をもつということと、論理的に物事を詰めていくことが重要 世の中に必要な人間となれ：必要とされるものこそ栄える 	<ul style="list-style-type: none"> 開発研究の意義を実感させ、人材養成への産業界と大学との有効な連携を。 これからの技術を支えていく世代の人々と連携して、技術開発に取り組めないか。 先端研究をリードする「研究の聖地」の創設を期待する。 	<p>(自社経営)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境を考えて80年：炭素の少ない燃料の「プロパン」から「水素」へ 「水素こそが究極のエネルギー」 世の中に必要な人間となれ：必要とされるものこそ栄える 水素ビジネスの今後の展開。水素用途の拡大・世界中の自国のエネルギーの活かし方に貢献する水素
<p>日本認証株式会社 代表取締役会長 IDEC株式会社 技術経営担当 上席執行役員 大阪大学 工業会理事 藤田 俊弘 様</p>	<p>「気宇壮大」： 思考半径と行動半径の影響半径を大きくすることを十分に意識して行動し、大きく生きたいというのが基本的な考え方。</p>	<p>「思考半径を広げ、影響半径の広がりをも」「面白いと感じること」「海外志向を」「英語力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 面白いと感じるか、面白いことを見つけられるかが大切 思考半径を広げることとその思考の正当性を確認するために行動半径を広げることが大切。 行動してわかったことを自分の周りに影響を与えて時代を革新するように影響半径を広げること 日本人の技術力は全く問題なく、必要なのは、「語学力」そして「交渉力」のある人材 「海外志向」をもっと高めてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェルビーイング・テクノロジーの研究や国際連携の日本初での先取り体制を大阪大学に。 	<p>二つの方向：</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際標準化など規格創成への取組み 企業のあり方としての「ウェルビーイング」の実践 「ルールをつかう」だけでなく「ルールをつくる」活動を 「安全・健康・ウェルビーイング」を軸に 人と機械と環境が情報で繋がることで実現する「協調安全」 リスクを取ることで安全が生まれる (自社経営) ファインパブル技術の国際標準化の実現と更なる展開へ
<p>元・アサヒグループホールディングス株式会社 代表取締役副社長 川面 克行 様</p>	<p>自分の座標軸を： 自分の座標軸をしっかりと持ち、自らの座標をしっかりと把握しておくこと。</p>	<p>「広く学ぶ意識」「経営を学ぶこと」「英語力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい流れのチャンスを逃さないことと、技術力を高めるため、日頃の準備を欠かさないこと 広く学ぶ意識は持って欲しい 若いエンジニアに望みたい二つ：「経営を学ぶこと」と「英語力」 意志を確実に伝える、あるいは強く主張するとき、的確に英語で話ができることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 大学は、理念・方針を明示して、分かりやすく伝える努力を。 「大阪大学のブランド」をもっと維持・発展させて欲しい。 OBにも分かりやすい形で大学の目標を示していただきたい。 組織の行く道は、理念があって、経営方針に従って数値目標など設定するのですが、大阪大学がこれから進むべき道標が具体的に示され、先生方がそれに向かっての教育研究活動を。 経営的センスが求められ、大学の構成員の意識も変わらなければならぬ。 	<ul style="list-style-type: none"> すべてのステークホルダーとの共創 すべてのお客様に、最高の明日を。お客様相手での失敗は許されない ものづくりの繊細さを考える 「チャンスは貯金ができない」、思い切った決断へ 利益を出し続ける強い信念を持つことが根本
<p>花王株式会社 取締役会長 澤田 道隆 様</p>	<p>「一心不乱」と「素心深考」： 物事に集中して一心不乱に行動することが求められる時の行動が大切。 素直な心で、しっかりと考えよう。</p>	<p>「しっかり眺める」「本質を見る」「独自性が大事」</p> <ul style="list-style-type: none"> 物事を真面目にしっかり眺めているとすごいことが見えてくる 物質を表面からのみ見ているのではなく、それを構成する「本質」を見ることが重要 「独自性」が大切、その上で、深く突き止めるということと成果に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成の本質は、人が育つ環境をつくること。 人づくりはコミュニケーションを通じて胸に突き刺さる経験を与えること。 「評価の仕組み」を変えよう：評価の仕方の変革が大学には求められている 	<ul style="list-style-type: none"> 「未来への5つの約束」 基本的には全てのステークホルダーに向けての約束 経営は：本質を見極め本質に帰る 本質の意識を持ち続けてコミュニケーションを図ること。自らが経営ビジョンを持ち、その丁寧な説明 人材育成の本質：育つ環境を整えること (リーダーの役割) 企業経営者は、価値あるコミュニケーションをとり、胸に突き刺さる一言を (自社経営) 花王はESG経営に軸足を移すことを宣言。
<p>株式会社大同工業所代表取締役社長 大阪大学 工業会理事 大桐 伸介 様</p>	<p>「仕事は信頼の積み重ね」： 小さな仕事を任せられない人に大きな仕事を任せられない。</p>	<p>「自ら学ぶ」「伝える力を」</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学では自ら学ぶ姿勢が大事で、姿勢の差が結果に表れる 学生がリーダーとなることへの期待：「色々な人と話し、伝える」能力を 経営において、方向性を定め、予算を確保し、組織を引っ張っていくために、「色々な人と話し、伝える」能力が重要 	<ul style="list-style-type: none"> 大学での研究経験が企業での未知の分野へのアプローチに役立つことを感じさせる教育を。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様第一主義で敏速に行動 会社の繁栄は「信頼と和」である。 品質は会社の命 ものづくりの基本は現場現物主義 SDG s への取組と社内の理解増進 (自社経営) 海外展開をめざす：課外展開の難しさと自社のスペックが活かせる方策を

<p>株式会社エンバイオ・ホールディングス 取締役会長 西村 実 様</p>	<p>「成功は約束されていないけれども、成長は約束されている」： 普段行っていることは必ずしも上手くいかないことが多いが、それでもやった分だけ人間は成長し、経験は無駄ではない。</p>	<p>「自ら考える力」「打ち込み力」「阪大卒のブランドを大切に」 ・自分で考える、鵜呑みにしないこと、自らの目で見て打ち込むことが大切 ・その上で、何かに打ち込むことが重要 ・卒業生には「阪大卒」のプライドを持ってもらいたい</p>	<p>・産学連携では大学の圧倒的サイエンス知見に期待。 ・企業の方も大学に求める役割をしっかりと考えることが重要。はっきりと両者の役割を理解させること。 ・大学の研究資金の獲得に起業化の件数などが用いられることには少し違和感がある。素晴らしい成果の出ている基礎的な研究でも、大学主導でその研究成果の事業化や社会実装などの話に進むと、基礎研究のレベルが中途半端で止まってしまうのではないかと懸念。</p>	<p>・先を見た独自技術が勝ち抜くための条件 ・ベンチャーが成功するために：他と違う技術を持つことと先行経験を最大限に活かす ・企業経営で大切なこと：よい仲間のチームワーク ・人材の適材適所に配置したチームを大切に、チームワークを大事に</p>
<p>元・東京エレクトロン株式会社 代表取締役会長 東京エレクトロンデバイス株式会社取締役 株式会社レゾナック・ホールディングス 取締役 常石 哲男 様</p>	<p>「我行精進 忍終不悔」： 基本的には、いろいろな意見や批判もあるかも知れないが、自分の「行い」を精進していけば、後悔するようなことにはならない。 大事なこと： 「Frank」「Fair」「Honest」「Casual」、そして「Fun(楽しく)」</p>	<p>「英語力」「世界一を目指す」「夢」「気概・意欲」 ・教養教育が必要なこと：英語はネイティブ並になることが重要 ・「世界一」を目指す意欲の強化を ・世界で戦う、世界で1位を狙えるような「夢」を持ち続けて欲しい ・世界を舞台に活躍する気概・意欲を持つ</p>	<p>・我が国の大学教育のあり方を問う。日本はもっと高等教育に金をかけないといけない。 ・ファンドはフェアに大学にディストリビュートすることが重要。 ・大学の研究成果も世界に通じるものに育てて行って欲しい。 ・新しく生まれた「知」を実用化・事業化ベースに乗せる軌道が重要。</p>	<p>・創業者の目利き ・「良き企業文化」：企業文化の成長は土壌が大事 ・研究開発力が命 ・いい企業文化が良いものを造り出す ・社員を大切に「企業風土」が気概のある人財を育てる ・企業の成長は利益から：利益を上げるための競争と共創が求められる ・フェアな評価が不可欠 ・リーダーの役割：やる気を生む環境を作り、部門の総力の最大化を</p>
<p>サラヤ株式会社 代表取締役社長 更家 悠介 様</p>	<p>「地球市民宣言」： 一人ひとりが「地球市民」であるという気持ちで、様々な課題を「自分ごと」として、本気で取り組んでいけば、世界は良い方向に変えていける。 「持続可能な世界の実現を目指す」目標に、「地球市民」として、価値観を共有し、お互いに理解して尊重し、思いやりを持って、行動すること。</p>	<p>「自ら考える」「自らの経験」「海外指向を」「リベラルアーツが重要」 ・「自分で考える」ことを是非期待したい ・若いうちに海外に飛び出そう ・ネットで情報を得て分かった気になるのではなく、海外に出て自分の目で新しいことを見る経験を大切に ・工学部といえども是非文系の本を読み、リベラルアーツをつけることが需要で、このリベラルアーツが新しいことを考えるときのベースになる。</p>	<p>・国際的に評価される研究を：役割を明確にした産学連携も活かしてほしい。 ・大学の方で、社会に役立つ「種」を是非創造して欲しい。</p>	<p>・イノベーションが企業経営の最重要課題：自主独立的に活動する人材が活躍 ・イノベーションを支える人材の養成と人材評価が大切 ・お客様をしっかりと見ながら、社員が楽しく、互いに気を遣い、愛嬌と愛情をもって ・組織力が企業経営を支える(自社経営) ・地球市民宣言：ビジネスのあり方にも地球市民感覚を ・未来社会のために何をすべきか：健康寿命の向上へ</p>
<p>サンワ・リノテック株式会社 取締役会長 佐川 博敏 様</p>	<p>「七十にして矩をこえず」 「友達方より来たるありまた楽しからずや」</p>	<p>「大志をいだけ」「海外志向を」「自ら体験する」 ・大事なこと「大志をいだけ」 ・若い人は、常にAmbitiousをもち、大学に閉じ籠もらないで、海外への留学や遊学 ・大事なのは、自分の目で見て、自分で経験してということ</p>	<p>・大学には誇れる成果を、学生さんには海外経験と語学力をつける教育を。</p>	<p>(自社経営) ・「おもしろおかしく、人に笑顔を、そして、好奇心をもって、ワクワク働くこと」 ・「確固とした信念を持ち、自分に関わるすべての人から感謝され、共に感動しチャレンジする志を持ち、サンワリノテックを成長させていく」 ・「生涯の使命は、確固とした信念を持ち、いつも前向きに行動。毎日自分自身の心をときめかすことを継続すること」 ・歴史的建造物を後世に、文化財の保存をライフワークに</p>
<p>株式会社 ユーデーコンサルタンツ 代表取締役会長 西田 修 様</p>	<p>「人生は死ぬまでの暇つぶし」： フランス・パスカルの言葉「人生は死ぬまでの暇つぶし」。仕事をやっているときには趣味の領域ではなく、ずっと仕事一本槍と考えてはいたが、いかに余裕があり、視野を広く持てるかが重要。その意味でこれからも暇つぶしを。</p>	<p>「語学力」 ・外国語の重要性を意識して、真面目に受講、努力を</p>	<p>・大学の教育では、自ら進む道を見つける指導を。大学では実務を教え、経験させる教育を。 ・自らの望むところ、やりたい仕事が見つけられる基盤となるような教育や実習体制を。いまや、この「自ら」が欠けている。 ・大学はリベラルアーツを学ぶ場であり、しっかりと教養教育が必要。教養教育と専門教育とのバランスを。更には、専門教育の課程の高学年時でも教養教育を。</p>	<p>・再開発：「モータリゼーション」と「少子高齢化」が要因 ・都市開発をコーディネートする人材：「人の話を聞く力」が重要 ・生成AIは、基本設計においては、我々の作業の効率化は図られるが侵略されることはない ・VE (Value Engineering)</p>
<p>元・株式会社SUBARU 取締役専務執行役員 三井化学株式会社 社外取締役 馬淵 晃 様</p>	<p>「ありがたい姿へ」： ありがたい姿を描き、そこを基点としてバックキャストして実行計画を創って進めていくことが一番の基本</p>	<p>「自ら考える」「意志・構想をもって取り組む」「アプローチ力」 ・卒業研究とクラブ活動の企画などは意義深く、自ら考え解決する力や計画性が後々役に立つ ・自分の「意志」・「構想」を持って取り組むこと ・大学では、物事への取り組み方を学ぶことができ、自分で考えてどう行かせるかを学ぶ良い機会であった ・新しい課題に取り組むことのアプローチの仕方について学ぶように</p>	<p>・多様な人材、多様な環境が活性化を生む。 ・「変革をしなければならない」というが、変わる、変わるといっても、同じところで育ってきたものばかりでは、同一色では、多分本質的には何も変わらない。 ・最近では研究が進んで行くとかかなり細部に入り込み、限られた分野に講義や研究が進んで行っているのではないかとと思われるが、多様な広がりのある可能性を学ぶことにも注目して欲しい。</p>	<p>・職場の変化でも前任を引きずらず、新しい場所でゼロスタート ・ありがたい姿を描き実行すること ・技術第一といってきた企業の経営の基本は、SUBARUブランドを確立し、それに沿った車を作ることで、収益力のある商品を世に出すこと ・経営に不可欠なのはガバナンス力：末端の言うことを拾い上げて「よい会社」に ・「よい会社」とは：社会の評価を得て、働きがいのある環境のもと収益があげ続けられる会社</p>